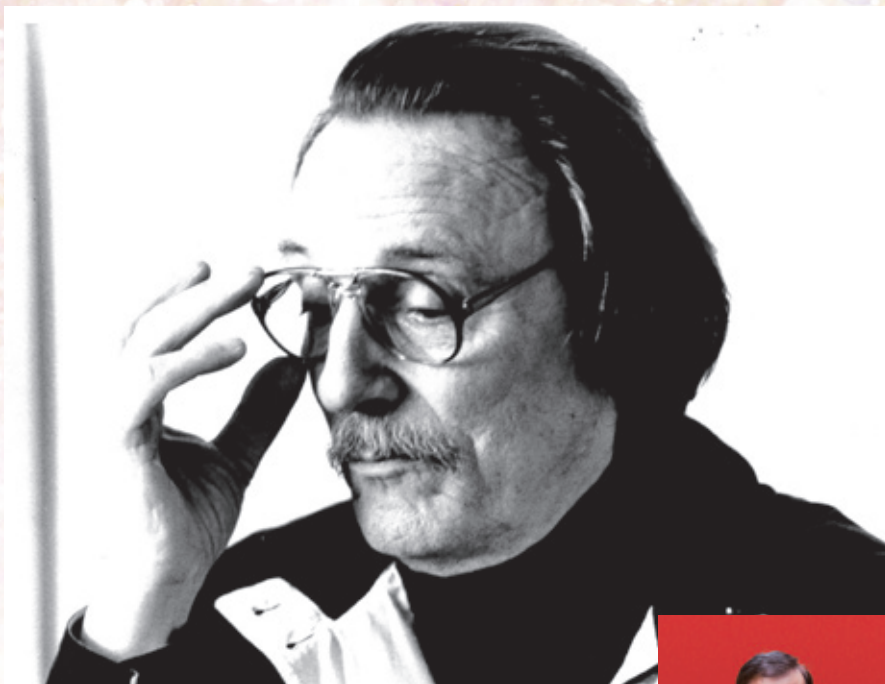


アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ (1920~1995)

Arturo Benedetti MICHELANGELI 文◎関孝弘

現役ピアニストが語る 大ピアニスト



SEKI Takahiro

ミケランジェリの生地であるイタリアのブレーシャ国立音楽院に学び、数々の国際コンクールに上位入賞を果たす。イタリアのピアノ作品を意欲的に紹介、本邦初演も多数。イタリア政府から文化勲章コメンダトーレ章が叙勲された。現在、日伊音楽協会理事、バルマ・ドロコ国際コンクール審査委員長。近刊「ブリッランテな日々」(晶文社刊)も大きな反響を得ている。



た美しいピアノの純粋な響きが音楽を支配する。ここまで極限的に完璧さを追求したのは、先にも後にもミケランジェリのみであろう。しかし、完璧を求めれば求めるほど、皮肉にも世間からは「キャンセル魔」「レパートリーが狭い」と批判される部分を作ることとなる。

緊張感とスピード感の美しい均衡をどう保つか、ということであったのかも知れない。
厳しい修行僧のような側面からは想像しにくいかもしれないが、彼はディズニーの映画がお気に入り、よく見ていたようである。特にミッキーマウスの漫画は定期的に熱心に購読しており、生徒たちに、そして仲間の音楽家たちにもすすめていたほどである。

公で演奏する作品は確かに限られてはいたが、実は膨大なレパートリーを持っていたというのは、多くの弟子、知人が語っている。ヴァイオリニストのアッカルドも「彼は一晚中スカルラッティのソナタを次から次と弾き続け、その数60曲を越えていた」と。最も好きな録音について尋ねると、「ラフマニノフの協奏曲4番は、素晴らしい録音で一番好きである。それ以上を望むことは出来ない」、その後は公で演奏していない」と打ち明けている。日本公演でキャンセルしたベートーヴェンの《ソナタ第31番》も、公では一度も演奏されることはなかった。

ミケランジェリが来日した時、私はまだ子供だったが、紹介されてホテルに向くと、彼は赤ワインのグラスを手に、笑顔でNHKのテレビ『ピアノのおけいこ』を見ていた。子供に髭を引っ張らせて喜ぶミケランジェリの姿、またアルプスの合唱団SATに気軽に顔を出したり、と温かなシーンが写真に多数収められている。神秘に包まれた孤高のピアニストの真の姿は意外と子供好きである。心許せる仲間たちの間でリラックスするミケランジェリの側面を知ると、彼の演奏を「非人間的で冷たい」と単純に言い切れるだろうか。

1995年6月12日、山を愛した大ピアニストはスイスのルガーノの病院で静かに人生を閉じ、アルプス山中の寒村プーラの墓地に埋葬された。ひっそりと執り行われた葬儀には、かつての弟子でもあったアルゲリッチ、ポリーニも駆けつけ、その死を悼んでいた。

神秘的な容姿から生まれるニヒルとも言える表情等から、ミケランジェリに近寄りがたいものを感じる人が多い。演奏している姿はほとんど微動もせず、聴衆の拍手に応えることも無く、舞台袖に素つ気なく引つ込んでしまう。イン

タビューに応じることも極度に少なく、大衆性からは程遠い人物であった。精巧無比な技術と強靭な理性を持つて一つのフレーズを何回も何回も繰り返して磨き上げる。感情の抑揚を統御する完璧なアーティキュレーションと澄み切つ

フェラーリのエンジン音は「どんなに素晴らしい音楽家も表現出来ないであろう」と酔いしれる彼の運転は無謀極まりないもので、同乗者は「生きて戻れて良かった」と神へ感謝する。車の運転技術は、演奏スタイルと共通項で、